地域創生科目グローカル・コラボレーション（ネパール）

プログラム区分	海外実習
主幹部署	世界共生学部
研修先国・地域名	ネパール、ドゥリケル町
研修先	Friendship Foundation Nepal (FFN)
プログラム概要	この研修の目的は、多文化共生社会を担う能力のある人材を育成することである。具体的には、多文化コミュニケーション能力の向上とネパール地域の現状分析、課題発見、課題解決能力の養成を目指している。この研修では、ネパールの人々と協力して文化の紹介や体験を通じて、女性差別や社会問題、農村コミュニティなどの異文化理解や、各国での社会問題などのテーマで交流をする。最終的に、2 人または 3 人のグループがテーマを選び、発表をする。このネパール研修は、学内での 4 日間の事前研修、ネパールのドゥリケル現地での研修（10 泊 11 日）、国内研修（2 日間）、2 日間の事後研修で構成している。ネパール現地では、貧困、教育、格差、そして持続可能な社会の構築に焦点を当て、カトマンズに隣接するドゥリケル町をフィールドとして活動する。現在、首都カトマンズだけでなく、その周辺の町でもごみ問題、水問題、衛生問題が大きな社会問題となっている。さらに、教育の格差が社会内で貧富の差を広げている。このため、現地の小学校を訪れ、教育の現場を身近に観察することで、ネパール社会が抱える社会構造的な問題を理解し、大学で学んだ知識を活かして解決策を模索していく。 また、国際的に問題となっている人身売買の実態を、現地の被害者の方から聞き、意見交換を行う。今後、日本社会も多文化社会へと発展していくでしょう。一方で、現在の世界では紛争や内戦、子供への虐待や人身売買、汚職などが多発している。これらの問題は発展途上国に限られたものではなく、日本でも存在していることがある。このような認識を持ち、世界の問題に対して包括的かつ積極的に取り組むことが必要である。その過程で、持続可能な社会を目指す中で、先進国である日本と発展途上国であるネパールの両方をより深く理解することで、豊かな社会を実現するための道筋を考えている。
日程	出発予定時期：１月　　期間：海外８日間　国内３日間
単位認定	2 単位
他学科生の受入れ	可　　受入れ可の他学科：全学科
語学研修の有無	無
語学研修以外の内容	有
問い合わせ先	世界共生学部
その他	宿泊先：宿泊先は村のホテルで、滞在する部屋には鍵がついている。トイレは水洗式である、シャワーも備わっているが、お湯があるとは限らず、場合によっては水浴びになることもある。

体験記：世界共生学部　地域創生科目ネパール研修に参加して

所属学科：世界教養学科
氏名：原田美優

本文：
私たちは 10 日間のネパール研修で、ネパールの実態をはじめとしたさまざまなことを学びました。
まず、小学校でボランティアや交流を行ったり、人身売買の被害者に対しての支援を行っている施設や、女性支援を行っている施設を訪れて、それぞれの場所でインタビューを行いました。文面や画面越しにではなく、こうして実際の人々に直接話を聞くという経験は初めてだったので、新鮮な経験だと感じると同時に、とても貴重で興味深い話をしてくださったため、お話を伺っている時間はあっという間に過ぎてしまいました。
日常的な面でも注意を向けるところは多くありました。ネパールではポイ捨てが日常化していて、ゴミ問題が深刻であるということについて事前に聞いてはいましたが、実際にそれを目にし、その環境の中で行動することで、道端に多くのごみが散乱している状況が彼らの日常に根付いてしまっていることを認識し、日本との衛生観念との違いに衝撃を受けました。また同じく衛生的な面において、トイレやシャワーといった水回りの便利さは日本と大きく違い、最初の方はとても苦労しました。しかしそれもまた、日本での便利な生活に慣れ切った私たちにとっては、この生活の有難みに気づく重要な経験であったと思います。
世界遺産である寺院や火葬場を通して宗教観や死生観についてや、結婚式に訪れることで文化的な面から、そしてカトマンズやドゥリケルといったそれぞれのネパールの街の様子、といったようにさまざまな視点からネパールをより深く知ることが出来ました。そして、その度に日本との違いの大きさに驚きました。
この実習を通して、実際にそこを訪れなければわからないようなこと、知り得ないようなことがたくさんあるということがわかりました。私たちがネパールで学び、得ることが出来たのは、ネパールの問題やその現状だけではなく、そこに住む人々との交流や、その国の雰囲気の中での生活を通して、今まで遠く感じていたネパールという国への親しみ、そして異文化をその身で感じて知ることの楽しさでした。